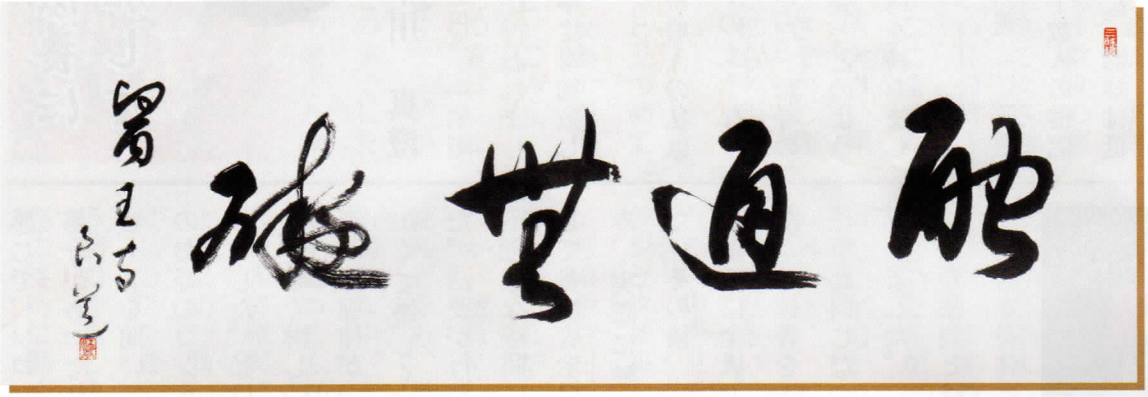
道

発　行　真言宗豊山派　霊松山歓喜院
金　剛　寺
〒371-0241　前橋市苗ヶ島町1147
TEL 027(283)6918 FAX 027(283)6815
http://www.raijin.com/kongouji/



「融通無碍に生きる」

真言宗豊山派　医王寺　長橋良道

昨年のことです。伊香保での県内の布教師会が開催された時、私の背中をポンと叩いて、「来ましたね。」と、親しく声をかけてくれた方がありました。ふり返るとなんと笑顔の志田さんでした。志田さんとはこれまで二度ほどしかお会いしてないのに古くからの知己のようだったのです。

「志田さん！」などと失礼な呼び方で申し訳ないと思いましたが実は偉い方なのです。金剛寺の住職として葬儀や法事のみでなく檀信徒の心を汲んで活動を展開されています。その上、人々のために多くの要職を担って居られます。「そんなに沢山のお仕事、大変ですね。」と申し上げると、「いや、ものずきなんですよ！」と、少しも高慢な口ぶりでなく、「世の中の人々が幸せになれるようお手伝いしてるんです。」誠に頭が下がりました。

志田洋遠僧正こそ僧侶の鏡です。私など年齢はとってもまだまだ志田さんの足元にも及ばないと存じます。私は「融通無碍（礙）」という言葉が好きで筆で書いて目につくところにはっています。般若心経の教えは、とらわれない、こだわらないで生きようとあります。胸を張っていつも笑顔で生きられたらと願っています。志田さんは、般若心経に精通し、実践されている菩薩様です。心経の冒頭、仏さまが弟子の舎利子（私たち）に説かれるという形で展開されています。観自在の菩薩が悟りの岸に渡るための智慧の行をなさっている時、で始まります。感じることが自由自在な菩薩で何ものにも囚われることなく考え行動できると説かれています。

私も折角志田さんに親しく声をかけられたご縁に菩薩への道を歩みたいと決心しました。先ずは「懺悔文」、今までにおかした貧けの心、瞋りの心、愚かな心の三毒をなくし、ほとけの智慧で生まれかわるのです。

最近、書店の一角に健康に関するもの、仏教に関するものが多いのに驚きます。健康に関しては、だれもが病気を克服して長生きしたいものと願うのは理解できます。たしかに男女共に世界一の長寿国となりました。平均寿命が高くなったことを素直に喜んでいいのでしょうか？　私の近所に高齢者のための施設が次々に建設されています。自宅で面倒みられないからと施設に預け、命が終えるまで施設に面倒を見てもらう傾向が増えているようです。

新聞の死亡欄を見ていると「葬儀は家族ですませました。」というのが多くなりました。中には七十歳、六十四歳の若さで家族葬の例もあります。なるべく経費を少なくしてという考えも理解できますが、これが人生の最後かと思うと寂しくなります。高齢者になると知人も少なくなるから家族葬でというのも納得できますが、人間はこの世に独りでは生きられないので多くのご縁によって活かされているのです。

日本は世界中で最も治安のいい豊かな国でした。ところが最近全く理解できない事件が多く発生しています。物の豊かさのみ幸福のバロメーターという考え方は間違いです。今こそはほとけさまの智慧をいただき感謝の心で生きることです。般若心経の教えを実践していらっしゃる志田さんを見習いたいと存じます。

合　掌

歴代先師供養に参加して

早川　真澄

平成二十三年三月五日、「金剛寺」にて歴代先師供養が行われました。私は縁ありこの行事に参加致しました。

「供養」と聞くと、一般人の私は「〇回忌」という法事のようなイメージを持ちました。ただ、お寺の行事なので、一般の法要とどのような違いがあるのかと興味を持ちました。

厳粛な空気の中、供養（二箇法要）が始まりました。十数人の僧侶がお経を唱え始めました。お経は低い声で一定の音程で唱えるものと思ってました。しかし、始まってすぐに私の知っているお経とは全く違うものでした。お経は旋律がついた感じで、ソロパートがあったり合唱部分があったり、まるでお経のコンサートを聞いている感じでした。このお経のコンサートは声明というものでした。私はお経というのは何となく暗く淋しいイメージでしたが、声明は旋律がついた感じなので、温かくて優しく語っているようでした。法要が行われている際中、私は不思議な空間にいる感覚でした。そして参加者全員で「大師尊像」を拝み、実際に触れることが出来ました。その後、寺内のお墓（歴代先師の墓）に全員でお線香を手向けました。お線香を手向けることは一般の法事と同じだったので何となくホッとしました。

二箇法要とは、お釈迦様が悟られた内容を身体と言葉で追体験する法要のことでした。そしてこの法要は、修法が複雑でたくさんの僧侶が集まらないと行えない法要とのことでした。お寺の供養としてとても相応しいものだと思いました。希少な法要に参加することが出来てありがたく思いました。

災害派遣

即応予備自衛官　松村暁彦

今回の派遣は、予備・即応両制度が出来て初の招集です。

私の現職中にも大規模災害はありましたが、派遣の経験はありませんでした。担当部隊に出頭して準備を済ましてから、連隊でこれから向かう被災地の状況や任務、注意事項など細かな説明、指示を受けました。任務は行方不明者の捜索、原発から三十キロ、津波の被害状況はとても恐ろしく感じました。

震災から約1ヶ月たった被災地でしたが、まだまだ復興の兆しはありませんでした。道路は、通れなかったりデコボコして陥没や崩れたりしているところもあり、応急的に埋めてあれば良いほうでした。

津波の被害はテレビなどで目にしていましたが、想像を遥かに超えたものでした。どこかで（テレビの中、枠の中）と見ていたのかも知れません。目の前に広がる光景は、どこにも枠が無く、建物も無く、田んぼや畑には泥と砂が堆積してなんとも言えない嫌な臭いをしています。特に最近のご遺体発見現場付近はキツイ臭いがしています。とても今まで町が在ったことさえ信じられないほどです。

そこに胴長（腰上まである長靴）を履いて、検索棒や鳶口を使ってガレキや水溜り、泥の中を捜索しました。川の中も入って懸命に捜索しました。車やトラクターが鉄の塊になっていくつもありました。車や周辺に×印（ご遺体発見）がついているのを見ると、とても気が滅入ります。

海からとても離れている所でも、津波の水が未だに抜け切れておらず、魚の死骸などがあり中にはエイやウミガメまでありました。

海に近い所での捜索の時は、小高い丘があり、この丘にも十数件の家があったらしいのですが全て流されてしまったそうです。この丘の高さは二十m位ありましたがここまでも飲み込んでしまう、とても大きい津波はその場にいた人達はさぞかし怖かったと思います。ここにも×印がありました。

捜索中、こちらをずっと見つめている高校生位の娘さんと父親の親子がいました。話を聞くと、この丘にあった家の人でした。その方は「まだ母親が見つかっていなくて…。」お母さんを探しているとの事でした。地震の後、家に残っていて家ごと津波に流されてしまったそうです。今回の捜索では残念ながら見つけてあげる事が出来ませんでした。

ある流された家の庭には、そこの家の犠牲者でしょうか仮埋葬されていました。報道で仮埋葬の事は知っていましたが、家の庭までとはショックでした。

辺りに散らばっている貴重品や思い出の品も拾い集めました。その中にはランドセルやスクールバックも幾つかありました。私にも同年代の子供がいますので、特にその持ち主の子供たちが、無事に助かっていて欲しいと心から思いました。

ある時、一人の女性が「これを使ってください」と紙袋を差し出しました。中を見てみると数十本の歯ブラシとタオルなどが入っていました。「捜索や片付けは大変でしょう、少しでもお礼がしたい。」との事でしたが、全員に行き渡る数ではありません。でも、自分たちの生活がとても困難な中、支援の私たちまでにも気を遣ってくれる気持ちは、隊員一人一人に確実に行き届き、そして何より「力」貰いました。被災地の方に「力」を貰えることで、尚いっそう努力を惜しまず、危険を顧みず任務の遂行に勤められると思います。

駐屯地から被災地に向かう道中、すれ違う車や追い抜く車、歩いている人、目が合うと、ほとんどの人達が会釈をしてくれました。こんなことは今までに経験がありませんでした。通常の移動中は、ふざけて手を振る人はいましたが、ほとんど［目をそらす］でしたが今回は様子が違いました。なかには手を合わせていく人もいるほどです。これは今回の災害の規模や派遣に対する［期待・希望・慰労］の表れかなと感じました。

派遣期間が終わり、まだ大切な家族が見つからず一生懸命さがしている人達や家が流されてなにもかも無くなってしまった人達の事を考えた時、家族がいる事、友達がある事、家がある事、普通に暮らせる事はとても幸せな事なんだと感じました。

被災地はまだ、水が出ず電気もきてない所、家の無い人達が沢山いる事を、忘れてはいけません。復興が出来ても災害があった事を忘れてしまってはいけません。

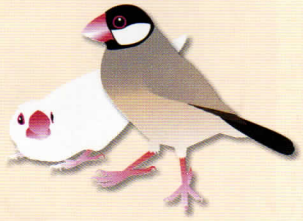
今期間中に宿営地の管理業務にあたった管理班、現場に一度も出ることが出来なかったけれど、後方支援のおかげで作業部隊は任務を遂行ができました。ありがとう、会社のみんな、派遣に協力ありがとう、貴重な体験が出来ました。家族のみんな、被災地に行くという事で心配をかけた、即自を理解してくれてありがとう。

最後に東日本大震災に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げるとともに被災地の一日も早い復興をお祈りします。

100歳からの手紙

手が思ふに動かず
遅れてしまい　仲々の
便りができず　悲しい
心で　手紙書いてみます
書くことのできぬのは
悲しいことと　しみじみ
悲しい心持ちで　ひとりで
机に向て　老へている私です。

故 北爪　せい さん（100歳と10ヶ月）



看護師さんよりメモ帳をもらい、ベットの机で家族に宛てた最後の手紙です。

生涯和歌に親しんだ『せいさん』の言葉や文字への熱い思いが、読む人に感動を与える文章です。

心よりご冥福をお祈り致します。

心に残る年賀状

長岡　進・啓子ご夫妻より

長岡ご夫婦からのほのぼのとしたユーモアのある年賀状に心癒されました。

絵と文にご夫婦の睦まじさと暖かさを感じております。

主な講演会（講話）

月　日　平成二十三年一月三十日(日)
会　場　邑楽町産業研修会館
対象者　小中ＰＴＡ連合会指導者
演　題　『子育ては家庭から』
参加者　一三六人位

月　日　平成二十三年七月二十六日(火)
会　場　宮城中学校　体育館
対象者　宮城中学校生徒・教諭・保護司・更生保護女性会
演　題　『心のアンテナ』
参加者　全生徒・教諭・保護司・更生保護女性会員

月　日　平成二十三年七月三十一日(日)
会　場　前橋テルサ
対象者　つつみ孝之後援会関係者
演　題　『心の時代』
参加者　二〇〇人位

住職からのおすすめ本

一、どんぐり亭物語
著　者　加藤　久雄
発行者　（株）海鳴社
定　価　一六〇〇円＋税

二、『引きこもり』と闘う親と子を応援する本
著　者　安川　雅史
発行者　（株）中経出版
定　価　七〇〇円＋税

編集後記

寺報『道』第八号を配布させて頂きます。表紙には、松井田町在住『医王寺』ご山主長橋良道師に玉稿をいただきました。大先輩との出会いの縁に唯々感謝するばかりです。

三月五日に当山歴代先師供養を群馬仏教青年会のご協力と役員・壇信徒のご参加をいただき開催致しました。この法要に参加した早川真澄様の感想文を紹介させて頂きます。

次に、東日本大震災（三月十一日）復旧支援の為、現地に派遣された即応自衛官松村暁彦様の被災地の状況についてのご報告をいただきました。現場に立たれた人のみが語れる真実・事実に愕然とする思いです。国民の一人として自衛隊員及び即応自衛官に対して、心より敬意を表すると共に、送りだされたご家族の皆様に感謝申し上げます。

最後に『東日本大震災罹災者諸精霊位』のご冥福を心よりお祈りさせていただきます。

合　掌